第 10 回（公社）日本脳卒中協会奈良県支部
脳卒中市民公開講座

2015 年 9 月 26 日、奈良県文化会館小ホールにおいて第 10 回（公社）日本脳卒中協会奈良県支部　脳卒中市民公開講座（支部長：奈良県西和医療センター院長　川口正一郎）が開催されました。参加者は、138 名。

「脳卒中とはこんな病気」では、藤本京利氏（奈良県西和医療センター脳神経外科部長）は、脳卒中はなってから治す病気ではなく、ならないようにする病気。予防する病気であることを強調されました。「脳卒中とお薬の話」では、吉村照美氏（奈良県西和医療センター薬剤部長）は、脳梗塞の薬について「血圧を下げる薬の Q&A」で紹介し、正しく薬を飲むための注意点を話されました。「48 歳の脳卒中（脳梗塞）発症から社会復帰までの歩み」では、川勝弘之氏は脳梗塞発症の予兆・前兆、発症時の対応、治療とリハビリテーションと入院中の苦労や費用、そして社会復帰での苦労について日本脳卒中協会奈良県支部支部長と対談されました。脳梗塞の経験者としてのメッセージとして、脳梗塞を起こした場所は自宅が 82%であり、家族の知識も重要。早期発見のためのお勧めしたい習慣を強調されました。